

## 平成29年度第1回総合教育会議会議録

平成29年度第1回総合教育会議が、平成29年10月26日午後3時30分、塩尻市保健福祉センター3階市民交流室に招集された。

### 会議日程

#### 1 開会

#### 2 市長挨拶

#### 3 教育長挨拶

#### 4 議事

議事第1号 教育の条件整備等について

#### 5 その他

#### 6 閉会

#### ○ 出席者

市長	小 口 利 幸		
教育長	山 田 富 康	教育長職務代理者	小 澤 嘉 和
委員	石 井 実 實	委員	林 貞 子
委員	嶋 崎 栄 子		

#### ○ 説明のため出席した者

こども教育部こども教育担当部長（新体育館建設プロジェクトリーダー）	中 野 昭 彦	こども教育部生涯学習担当部長（市民交流センター長・図書館長）	中 野 実 佐 雄
こども教育部次長（家庭支援課長）	百 瀬 公 章	教育総務課長	太 田 文 和
こども課長	青 木 正 典	生涯学習スポーツ課長（新体育館建設プロジェクトサブリーダー）	胡 桃 慶 三
平出博物館長補佐	小 松 学	男女共同参画・人権課長	石 川 忍
市民交流センター次長（子育て支援センター所長）	赤 津 廣 子	交流支援課長	小 松 秀 樹
交流支援課市民活動担当課長	山 崎 浩 明	図書館副館長	上 條 史 生
主任学校教育指導員	黒 澤 増 博	指導主事	宮 澤 修 司
建設課課長補佐	宮 原 勝 広	地域振興課課長補佐	溝 口 保 紀

#### ○ 事務局出席者

教育企画係長 横 山 朝 征

## 1 開 会

**中野こども教育担当部長** ただいまから平成29年度第1回総合教育会議開会をいたします。本日の進行を務めさせていただきます担当部長の中野ですが、よろしくお願いいたします。

## 2 市長挨拶

**中野こども教育担当部長** それでは、初めに小口市長から挨拶をお願いいたします。

**小口市長** 改めまして、こんにちは。今日、第1回総合教育会議ということでございますので、ぜひよろしくお願いいたします。もとよりお話し申し上げましたとおり、塩尻市レベルの教育委員会、市のレベルではとかく新聞で話題になりがちな教育委員会と行政部局のひとつの問題等は私はないと、ずっと就任以来思っておりますが、このようにフラットな場所で、お互いに意見交換することが、極めて有効かと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

予算策定がもうすぐ始まります。現在はそれに向けての3カ年、あるいは5カ年を見据えた実施計画という中での、おおまかなすり合わせがスタートしておりますけれども、その次に、具体的な次年度の予算編成等がありまして、教育ステージについてもですね、必要なものは、大したお金がない規模の自治体ですんで大きなことは言えませんが、努力、スピードを持って予算化していきたいということいった次第でございます。

不登校の関係で、ついこないだの議会で、不登校児が急激にふえているというあったんでそれも話しをしたいと思います。

〔「資料配ってください」の声あり〕

**小口市長** 今、緊急に用意してもらいました。これ、5月31日時点で、もっと増えてるってことだったかな。

**中野こども教育担当部長** 28年度の確定版という形でございます。

**小口市長** 前年度のこと。

**中野こども教育担当部長** はい。

**小口市長** じゃあ、もっと増えているかもしれないんだね。私の数年前の記憶では塩尻市は小中学校とも一桁台、たまに12とか3とかなんていうレベルで、非常に他市に比べて、ゼロが一番いいんでしょうけど自慢できるものと理解しておりましたところ、先日の議会の答弁では、なんか空耳だいいんですが、かなり大きな数字が報告されたもんですから、非常に危惧する次第でございますが、この辺についてもですね、時代の背景等映す数字が出る場合もありますけれども、教育委員会の力を借りてですね、できれば一桁台再チャレンジ的なことを教育委員会においてお聞かせいただければありがたいかなということで提案させてもらいましたのでよろしくお願いいたします。以上です。

**中野こども教育担当部長** 大変ありがとうございました。

## 3 教育員長挨拶

**中野こども教育担当部長** 続きまして、教育長から挨拶をお願いいたします。

**山田教育長** それでは、皆様こんにちは。教育委員会では、一人一人の育ちに丁寧に向き合う教育を理念に進めてきた教育振興基本計画を初め、子育て、文化、スポーツ、読書などの個別計画に基づいた諸施策が一期三年の評価見直しの時期を迎えております。これまで第五次塩尻市総合計画の中で基本戦略に位置づけ重点的に取り組んできていることを中心として、幾つかの具体的成果に結びついているのではないかと考えております。例を挙げれば、子供を産み育てる家庭へのサポートの

充実。全国学力・学習状況調査における学力・学習状況両面でのよい傾向の持続。特別支援教育指導主事や英語科の指導主事導入による学校現場への専門的なサポートの充実と現場指導力の向上。それから、コミュニティ・スクールの実践の広がり地域とともにある学校づくりの前進。また、知恵の交流を通じた人づくりにより、ブランド化が進んでいるえんぱーくや市立図書館の存在。また、スポーツコミュニティ活性化の中核となる新体育館建設の推進等であります。

しかしながら、多様化する保護者に対し丁寧に向き合う子育て環境づくり、また、児童生徒数の変動による学校規模を適正に維持していくための通学区のあり方、また、児童生徒が安全に登校し、安心して学ぶことのできる環境づくり、さらには確かな暮らしの根幹にあるべき地域への誇りや愛着を醸成していくための社会、教育、文化施設の維持活用など、進めるべき教育の条件整備の課題も存在しております。

本日は、こうした教育の条件整備に関してテーマを絞って闊達な意見交換をお願いしたいと思っております。次年度以降の施策展開に生かすことができたらと思っておりますので、どうかよろしく願いをいたします。

**中野こども教育担当部長** ありがとうございました。

#### 4 議 事

##### ○議事第1号 教育の条件整備等について

**中野こども教育担当部長** それでは、お手元の次第に従って議事に入ります。議事第1号、教育の条件整備等についてということで議題とさせていただきます。資料No. 1になります。事務局に説明を求めます。

**太田教育総務課長** 教育総務課の太田といいます。よろしく願いいたします。議事第1号、教育の条件整備等につきましてお願いいたします。まず趣旨でございますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4、第1号の規程に基づき、教育を行うための諸条件の整備、その他市の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため、重点的に講ずべき施策について協議いただくものでございます。

本日の議題の(1)番、児童・生徒の安全対策につきまして、特に通学路の安全対策につきまして御説明をさせていただきたいと思っております。お手元の資料、平成28年度通学路合同点検箇所一覧になりますが、こちらをお願いいたします。市教育委員会では、通学路における児童生徒の安全確保のため、通学路合同点検を平成24年度から継続して実施しております。点検結果は、市ホームページにおいて点検箇所一覧と対策箇所図を公表しております。お手元の資料は市のホームページに掲載しているものになります。平成28年度は小学校22カ所、中学校14カ所、合わせて36カ所の通学路合同点検を実施いたしました。

次に2ページをご覧ください。表の下の洗馬小学校、1つ例になりますが、No. 1、洗馬地区の太田公民館前の県道について、こちらは管理する松本建設事務所が道路両側にグリーンベルト塗装を実施しております。その対策箇所図は4ページの次から、2枚目の裏面、ちょっとごらんになりたくて申しわけないですが、写真つきで図面を載せさせていただいてあります。そちらもご覧になりながら実際に行われた対策等を御確認いただければと思います。この点検は、全国的に児童生徒の交通事故が多かった平成24年度に文部科学省の通知によりまして、全国の教育委員会を中心に通学路の危険箇所の点検を行い、交通事故等への安全対策を実施することにより、子供たちの安全を確保するものでございます。本市では毎年、各小中学校から報告のあります通学路における危険箇所について、学校、PTA、道路管理者、警察、安全協会、地域等の関係者によりまして現地で合同点検を行い、それぞれの立場から実施可能な対策等について意見を出し合い、できるこ

とは速やかに実施していくこととしております。対応策として横断旗ボックスや注意喚起の看板設置、路面のカラー舗装、ドットライン、グリーンベルト舗装等の実施により、運転者や歩行者の目に見える形で注意喚起等ができ、通学路の安全性向上に一定の成果があったものと考えております。一方で、道路の拡幅や歩道設置等の道路形状を大きく変更するような対策につきましては、早期の実施が困難なこと、また、横断旗ボックスや注意喚起の看板設置、路面のカラー舗装等の対応策を実施することにより、物理的な部分は整備できても、実際に通行する自動車や自転車、歩行者の交通ルールやマナーに対する意識の向上がなければ交通事故をなくすことができないということが課題として見えてきております。今後は、合同点検の取り組みだけでなく、交通ルールやマナーに対する意識の向上を図るための取り組みをさらに進めていく必要があると考えているところです。以上で説明を終わります。

**中野こども教育担当部長** 今、事務局より説明をさせていただきました。市長、また教育委員会の皆様から御意見等伺いたいと思います。通学路の安全対策につきまして御意見をお願いいたします。

**石井委員** よろしいですか。

**中野こども教育担当部長** はい、お願いします。

**石井委員** よろしく申し上げます。ここにも出ていますように、洗馬小学校の通学路ですけども、中原の交差点の拡幅をお願いを申し上げて、現在、拡幅が終わりまして歩道のほうは舗装になっておりますけれども、道路のほうがそのままになっています。それでこの前、市長さんをお願いをしたところ、市長さん早速飛んできて現地を見ていただきました。市の土木課と一緒に県のほうへ働きをかけるというようなことでお約束をいただいております。いずれにいたしましても、この道路はですね、この下の写真を見ていただいてもわかるように、センターラインが引けない道路です。センターラインが引けないってことは、それだけの幅員がないわけでございます。そういった狭い道路ですけども、ここら辺もずっとそれをきっかけにですね、幅員を確保していかなければならないんじゃないかなというように思っておりますけど、なかなか大変な事業だと思っております。それでできるだけ早く市の土木課と一緒に、拡幅した面の県道を舗装をしていただきたい。今、その面が草ぼうぼうになっておりますので、非常に見通しも悪くなっています。そんなことでもって、ここに見ますと、非常に危険箇所ってのが多くて大変だと思いますけれども、それぞれのところも安全対策というようなことでもって配慮をいただければありがたいなとお願いをするわけでありまして。よろしく申し上げます。

**小口市長** 確かに、歩道もきれいになってるのに使わないのはもったいないって、これは一般人が考えたら当たり前のことでして、もう県に話をして今年の補正予算で何とかしたいと、松建の石井所長が言ってくれたんですが、補正予算がどのくらい出るものかどうか、不明なんで、最悪の場合は市でやるという方法もあるんだけど、これはメンツがありましてね、なかなか簡単ではないです。予算の面でも1,000万円くらいかかるんじゃないかと思っておりますので、簡単ではない。

**石井委員** 私もね、地権者に譲ってもらうのに2軒、全然もう新しいところへ住居を移転してもらったりしてありますので、いつまで何やってるだっということですよ。

**小口市長** そうですよ、もっともです。今でも一緒に、ましてや歩道は舗装ができて通れという形になってんのに邪魔してるみたいなものなので、これはね、本当に行政の怠慢って言われても返す言葉がないと思います。部長のほうでもう1回、補正予算どんな状況になっているか確認しないと。

**中野こども教育担当部長** 建設課から、係長が出席しているので、説明をお願いします。

**宮原建設課課長補佐** 建設課の宮原と申します。よろしく申し上げます。私は、国・県との調整を担当しております。県からお聞きしている状況についてお話を申し上げます。

石井委員おっしゃるように、歩道ができてはいるけれどもということでございます。先般、市長か

らも百瀬建設部長通じまして、いけなければ市でというお話もお伺いしたところではございますが、実はなかなか進まない点といたしまして、結論から申しますと2点ほどございます。一つは、国の交付金を利用して行っている事業でありまして、その関係でなかなか国からの予算が配分されないというところが一つございます。それと、29年度、今年度ですね、実は車道を整備する予定でございましたけれども、南北に走ります原洗馬停車場線、こちらの用地買収の話が急にまとまりそうだとということで、今年度舗装に使う工事費を買えるときに買いたいということで、その事業費を用地取得に回したということがございます。ですので、車道整備が若干遅れておりますけれども、県といたしまして、先ほど市長おっしゃいましたように29年度の補正ですね、そちらがつけばすぐにも手をつけたいということと、そこが終わり次第、南北の原洗馬停車場線も事業着手したいということで、県が言っているのは30年度の末までに何とか完了したいということで県のほうも頑張っているところですが、いかんせん国の交付金利用ということで、若干間が空いているような状況でございますので、そのあたりについては御理解と御協力をいただければと思っております。

**石井委員** 都合でね、理解できないのは、拡幅と舗装は違うのかということ。そこら辺が理解できない。拡幅してやるならばきちんと用地買収と、車道がきちんとするのは一緒の予算でやってるんじゃないかなというふうに私どもは考えるので、そこら辺が理解しにくいわけです。

**小口市長** 総額では一緒ですね。今、言ったように使うべきところが他にあったと。

**宮原建設課課長補佐** それともう1点、補足で失礼いたします。石井委員おっしゃるように、歩道と車道は元々一緒に工事をやるという予定であったようです。ところが、交差点付近に電柱があったのですけれども、電柱の移転ですが、中部電力との調整の中で、28年度工事の期間中にはどうも移転が難しいというようなところで、工事を止めるわけにもいけませんし、であればまず通学路の安全を図るために歩道を先行しましょうということで、若干計画が変更になったということもお聞きはしております。

**石井委員** いろいろ言っても仕方がないことかもしれませんが、早急にいろいろな面で御協力いただいてお願いしたいと思います。この地図を見ますと、塩尻市内いろいろなところでもってそういった問題点があるかと思しますので、まこと通学路の安全については洗馬だけではありませんので、よろしくひとつお願いしたいと思います。

**小口市長** これ、図を見ると、よく赤字が多いってことは、違うか、全部赤字か。大分やってくれているんだね。そういう意味ではね。

**石井委員** そうですね、28年度。

**小口市長** 立派ですよ、ここまで達成率の高い事業って余りないんじゃないかと思えます。大体、6割いきや、大体マルってのは行政の基準ですけどね。また、石井所長のほうにも私のほうから直接依頼したい。ここで披露してもあれなんですけど、やむを得ず市で施工した例もあるんですね。正直に、高出スポーツ公園から国道153号にぶつかる交差点、あれは松本から来る側の右折路線をつけないと信号つかないということで、高出まで153号が国費で来るのは、恐らく30年、よくても10年かかるだろうということから、あそこは市費で広げました。松本から来る右折路線を暫定的に、ちょっと狭いんだけど普通車なら十分右折できるので、それで信号あそこへつけることができた。約1,000万円くらい、県のお金はもらわずに市が市費と国からの直接のできた。

**中野こども教育担当部長** あれも交付金事業だと思います。

**小口市長** 国から交付金をもらいましたね。

**中野こども教育担当部長** はい。

**小口市長** そういう例もありましたけど、こういくことをどんどんやるとなると、ほかの市道の予算

を回すことだもんですからね。もう1個、悲しい事故のあった、あの昭和電工の向こう側の、途中まで蓋してあってそこから蓋してないですよ、あそこ狭いです。あれを全部ちっとも県がやらないで、市でやっちゃえばやれないことないんです。蓋を置くだけです。恐らくあれだけで1,000万円、2,000万円くらいですかね。19号までずっと全部やるとね。そうすると、いろんなところの凍上の路面やり直しとか、いろいろ予算を回さなきゃいけないので、できるだけ国、県でやってもらえるところはやってもらったほうがいいとは考えてます。御指摘いただいたところは、舗装して使わせないなら最初から舗装しないでいたほうがまだいいと、簡単に言えば、そういうことですよ。

**石井委員** 県道なんて舗装してないところあるんだけど、その間が草が生えちゃって困っています。

**小口市長** そうですよ。ちょっとまた。

**石井委員** よろしくをお願いします。

**小口市長** これ、まだ済んでないところも29年度中、だから来年3月までには全部終わるといことですかね。空欄になってるとこは、学校PTAだから市の部分はだいたいいいの。

**石井委員** 28年度で随分事業行われてますよね。

**小口市長** 例えば上の広陵中の防犯灯は、設置を要望してだけで、これはいつやるという予定がないから、まだ時間がかかるという意味なんだな。

〔「そうです」の声あり〕

**小口市長** 防犯灯、結構出てるんだね。そうすると、ここにはそちらで報告するところはないの。そのそれだけですか。

**太田教育総務課長** そうです。

**中野こども教育担当部長** ほかに委員さんのほうで通学路の安全の関係で、ございましたらお願いしたいですが。ないようでしたら、次の議題のほうにいてもよろしいでしょうか。

**小澤教育長職務代理者** 片丘小学校の個々の事案になって申しわけありません。まず、この表を見させてもらおうと、塩尻市の場合はずいぶん手を打ってくれて実績を残してくださっている。そのことは市民の方々は本当に感謝しております。さて、今度は片丘線のことに入ります。県道片丘線の南部保育園から栈敷交差点までは、非常に交通事情が悪いところでもあります。過日、県の部長さんがやってくるようになりました。そこへ私も出向き、その様子を見させてもらいました。その中、県の部長さんいわく、ほしいほしいって言ってたってだめだよ。要するに実現するまでのプロセスが大事だと。片丘の場合にはそのプロセスが見えないじゃないか。例えばどういような学習会を開いたか、どういような期成同盟みたいなものをつくったか、そこでどんな活動をしてるか、それが見える形で示さなきゃ、県は動かないよと、それをきつく言われたように思います。初めて参加した者にとってはインパクトがあったわけでありませう。

その後、残った方々の話を聞いていると、願いはあるけれども、その願いを具現化させるために誰がリーダーとなるのか、いわゆる引っ張っていく人がいないんです。ここがネックでした。県の部長さんもそこをちらっと見て、そこは区長さんたちが先頭にやるだけけれども、県の松建と言うんですか、松建や市の方々が、困っているところに手を差し伸べなければだめだよっていようなことを助言していました。それ聞いたときに、そうだよと、私たち初心者です。そういうノウハウのない者に対してどういような支援の手を差し出すか、そこら辺のところ、市や県が考えていただければ地域は喜ぶと、そんなことを思います。

**中野こども教育担当部長** 建設課で補足がありましたらどうぞ。

**宮原建設課課長補佐** 片丘線につきましては、これまでも何度も現在の道路を拡幅する、またバイパスをつくるということで事業が計画をされてきましたが、その都度、地域の皆さんのどうか地権

者の皆さんの反対があつてなかなか実現しなかったということは聞いております。その中で、県の建設部長もお見えになりましたけれども、地元で、盛り上がりを見せてほしいという中で、現在、私ども課長の上條を中心に、地域の皆さんとの勉強会を計画しております、どのような方法があるのかというところを、まず皆さんで探って合意を形成していきたいというところで動き始めてはおります。なかなか時間がかかるものだとは思っておりますので、当面できることはやりながら、そういった大型の事業に向けて地元の調整は、私どもも県と一緒に地元の皆さんと協力をしていきたいということで進めておりますので、よろしく願いいたします。

**小澤教育長職務代理者** ありがとうございます。

**小口市長** かつてあの辺の片丘で片丘バイパス促進協議会みたいなものができたことはありませんでしたか。

**小澤教育長職務代理者** 十数年前であつたけど、つぶれたと聞きます。

**小口市長** そうですか。

**小澤教育長職務代理者** その後、休眠状態だそうです。何かいろいろ、ぐちゃぐちゃあつたようですが。

**小口市長** 当時はいっぱいいろいろあつたね。組織はまだあるの。

**宮原建設課課長補佐** 組織は、今現在はございません。

**小口市長** そうですか。

**宮原建設課課長補佐** はい。

**小口市長** 県のほうでは部長レベルでそういう話はするでしょうね。ほかはいっぱい協議会があつて、無償化こそ言わないが何回も陳情に来ると。北小野の場合には両小野振興会みたいなところが来ると。だけど、片丘は来ないじゃないかってこと言ってるんですね。

**小澤教育長職務代理者** と思います。具体を見せると。

**小口市長** 自分の土地出すからって人が5人くらい連帯すりゃ、1キロメートルぐらいいくから、そういうことでしょうね、一番理想の形は。

**小澤教育長職務代理者** 部長さんもそうやって言っていました。実を見せると。

**小口市長** 今、行政ではあの現道幅は、いくら県道とは言え、補償に何十億かかるレベルですから、それでもバイパスにしたほうがいいということでバイパスのルート、搬送の道路も含めて研究を松建と始めてます。

**中野こども教育担当部長** じゃあ、通学路の関係はよろしいでしょうか。

**小澤教育長職務代理者** いいです。

**中野こども教育担当部長** 次に進めさせていただきます。

それでは、社会教育・文化施設の活用ということで資料ございますので、事務局から説明をお願いいたします。

**胡桃生涯学習スポーツ課長** それでは生涯学習スポーツ課、胡桃でございます。よろしくお願いいたします。私からは教育条件整備等について、(2)社会教育・文化施設の活用について御説明申し上げます。お配りしました資料につきましては、生涯学習関連施設の利用状況でございます。現在、市内にあります生涯学習関連施設等につきましては、市民の生涯学習の場、また情報提供の場として運営をしているものでございます。市民の皆様初め、市内外から多くの方に御利用いただいております。

利用状況につきましては、27年、28年を比較したものでございます。この中で現状につきましては、例えば平出博物館、自然博物館等は、利用がふえているものでございます。各施設創意工夫し、企画展、またパネル展等を開催したことにより利用者がふえているというように推察されま

す。また、下段のほうにございます塩嶺体験学習の家につきましては、27年度比として約3割強の増になってございます。こちらについては、体験学習の家ということが認知されてきたことにより、利用しやすい施設ということで、交通の便は悪いのですが、環境は大変恵まれた場所にあるということで、利用者がふえているというように考えているものでございます。実際、子供たちの県大会の宿泊の利用並びに、例えば塩嶺のカントリーでゴルフの合宿をする大学生の合宿の場として利用しているというようなことを聞いてございます。

その中で、やはり課題等が見えてきております。やはり、施設によってはなかなか入館者が伸び悩んでいるというところが見え隠れしてございます。1つは、施設ごとの連携がなかなか難しいというところが1点。もう1点は、特に、旧檜川地籍にございます中村邸、贅川、木曾漆器館等については、近年、多くの外国人の方が訪問いただいているそうです。その対応について、なかなか現場では追いついていかないという現状があるようです。案内板の整備だとか文化の違い等について、これからまだまだ対応しなければいけないというところがあると聞いてございます。

3点目は、現在、塩嶺体験学習の家については大変多ございますけれども、その下、柏茂会館については、年々利用者が減っている状況にございます。場所については、洗馬にあります体験学習の施設でございますけれども、築年が昭和50年の建物でございます。もともと地元で利用されていた施設を平成12年に市に寄贈され、それ以降、青少年育成体験による生涯学習の推進を図る施設として運営してきました。近年、何分にも老朽化による建物の損傷並びに設備の破損等が目立ち、また建物については耐震化等もされていないため、今後は閉館も視野に含め検討しなければいけないという時期になっているというように考えております。来年度以降、もともと持っておられた地元並びにこちらの施設を、よく活用していただいている任意団体と話をする中で、後利用について協議を始めていきたいというように考えているものでございます。私からは以上です。

**中野こども教育担当部長** 今、事務局より説明ございました。皆様から社会教育文化施設の活用につきまして、御意見等お願いしたいと思います。

**小澤教育長職務代理者** お願いします。施設関係については、体協のほうからも市長さんへ、相当たくさん陳情をお願いに上がっているようです。おかげさまで体育館のことについては、歩みは相当に早いような感じがしております。期待を持って市民は見つめている、そのような気持ちだろうと思うわけです。

さてそこで、今度は、市長さんに心に置いていただきたいのは、平出博物館なんです。私も教育委員として平出博物館の活躍は、近年とみに目覚ましいなど、そういう捉えです。例えば一つには、過日も「顔」というテーマで、あっと驚くようなイベントをやりまして、相当たくさんの方々が訪れて注目をいただきました。また、市民タイムスの小林さんがああやって投稿してくれて、きょうもお金の埋めてある埋銭って言うんですか、そんなこともアイデアとして寄せてくれている。そんなアイデアをいただきながら、特色あるイベントを展開していると思います。

それから、ここを会場にして講座が本当にたくさん開かれております。参加してみると、塩尻市民だけじゃなくて、ここら近辺の中南信からも同じファンの方々が来ている状況で、平出博物館の頻度は高いなど、そんな思いです。それで、参加した方々のつぶやき聞くと、「暗いな、陰気だな」、中には、「カビ臭いわ」というようなこと、嫌らしいことを言う人もいます。そういうことで、あの建物自身も耐震の基準からも外れてるってことを聞いております。そうすると、そろそろあの湿気からおさらばしなくちゃいけないなということも頭をよぎるわけです。となったときに、あの場所に新築するがいいか、もっと平らな、あそこのガイダンス棟のある広いところへ持ってきて、あそこへ新築する。これがいいなのか、そんなこともいろいろ考えるわけです。私は移築したほうがいいんだろうな、なんてこと思うんです。



それで若い方々との話をすると、あそこは遺跡公園になってます。だんだんと木も育ってきて非常にいい景観を呈してるわけです。あそこに平出の泉からの水をちょっと、水利権の関係もあるかと思うんだけど、ちょっといただいてきて水辺をつくってやれば、あそこはいい子供を遊ばせる遊び場になるんだろうな、なんてことを思うんです。当然、事務局のほうでも、この博物館の新築というか改築というか、それについての検討委員会もぼつぼつ立ち上がるだろうと思うんです。館長にその思いを話してもらって市長さんに聞いていただければありがたいと、そんな思いです。

**中野生涯学習担当部長** 私からお答えします。

**小澤教育長職務代理者** はい、お願いします。

**中野生涯学習担当部長** 今、お話がありました平出を含めて生涯学習の資料館関係の施設については、かなり以前から建設されている建物が多いという状況です。施設整備については費用のかかることですので、そのタイミングをいつにするのかという議論がからんできますけども、平出の件について言えば、昭和20年代に建設された古い建物ですから耐震性がないので、それを解消してはならないという課題を抱えているということも事実です。建設場所について言えば、きちっと議論するところに来てるのではないかということは承知しております。建設等に当たりまして、これからいろんな議論始めていくというところがございます。建物を建てるということは、その建築をするまでの過程をどのようにつくり上げていくこと、活用をどのようにしていくのかということがものすごく大事で、その過程を大切に施設をつくっていかないと、今後、入館者数とか利用者数の伸びということも期待できないと考えています。

いい例が、えんぱーくの建設で、事前にさまざまな方からの意見を聞きながら建設までの過程を踏まえてつくってきているということが、現在のような利用度の高い施設となっていると考えます。資料館、博物館関係についても、そういった過程を含めたつくり上げということを大切にしなければいけないと考えております。既存の施設については、例えば現在の資料館の中でそれをどう価値づけをしていくかという部分も大切ですので、単に企画展等だけではなくて、その開催しているものがそで行われているという価値、あるいはその見せるという価値づけも同時に進めていくということが必要だと思います。また、事務局から説明のありました各館の連携については、現在進めておりますが、どのような組織体制にしていくかということを含めて考えていかなければいけないと考えています。

生涯学習関係の施設の中には、図書館も本来、社会教育施設として位置づけられます。例えば本洗馬の歴史の里資料館で、柳田国男の書簡が見つかったというのが新聞記事出まして、その関係でかなり入館者がふえています。実はその書簡を、企画展をする際に、その書簡が本当に書籍に載っているのか載っていないのかということ、レファレンスとして図書館側で調べて報告しました。そういった図書館を含めたそれぞれの連携をとっていくということもすごく大事だとも思っています。戻りますが、博物館建設については、建設するという方向性を定めるまでにさまざまな議論が必要だと、今、考えております。

**小口市長** 平出地区は部長も直接の担当者ですけど、市で3番目の重伝建として取り組んでいます。その時期と同期した形で、平出博物館のほうも考えると。私は現地の建てかえと理解しました。その前は確かに、もっとガイダンス棟の横あたりに持ってきたほうが良いという議論もありましたね。あれ以外のところは永久保存地区なので、文化庁が絶対いいと言いませんのでね。だから、つくるんならガイダンス棟の横あたりしか現実性ないんですよ。なのでそこまで持ってきてちゃって、あの上の古墳とかね、平出の泉とは離れるので、そのほうが良いかどうかという非常に難しい課題です。ベターな方向とれば今の場所かなって気が私はしてましたけども、また中野実佐雄部長のほうでね、その辺も踏まえた、ある意味ゼロベースからでもいいから検討が必要ですね。今回はちよっ

と時間ができたんで、前回のときは急であり、そのタイミング逃したんで、時間はできたと思いますんで、そうした議論をするってことじゃないですかね。

**石井委員** よろしいですか。私は平出遺跡のPRはするべきじゃないかな、どれぐらいにしていけばいいかってことなんですけども、例えば歯科大の裏向かいでマラソンの発着地点になってますけども、あれを平出遺跡で発着の地点にするとか、そういったことで利用していくというようなことでもって県外へPRをできるんじゃないかと思います。ブドウということでやってますけども、平出のあたりもブドウの産地ですけどね。僕は史跡よりもブドウをたくさんかなと思う。そういった使い方ってのは必要じゃないかなって思いますかね。

**山田教育長** 先ほど市長さん言われたように、ゼロベースから考えることはいいかなと思います。今、石井委員さんが言われたように、ブドウ、ワインというものは市のブランドの一つであるし、それから平出そのものが歴史としてのブランドを持つ可能性は秘めていると思います。要は世界的にも縄文の長く続いた1万年というものが、世界では類のない平和な時代ということで注目を集めてきているので、そうしたものに焦点を当てる必要があるだと思います。もう1つは、このレベルの市の中で、いわゆる美術館、美術作品を展示する場所が少ないというのは、やはり確かな暮らしの根元にある文化ということからいったときには、ぜひ美術品を展示できるスペースを確保するというようなことも視野に入れる必要があると思います。いずれにしてもどのようなものが一番市民にとって必要なのか、どこの場所が市民にとって、また、そこを訪れる方々にとって一番利用しやすく学びの場にふさわしいかということを考えながら、進めてく必要があるかと思いますので、事務局内の連携とりながら話を進めてまいりたいと思います。

**石井委員** 平出遺跡と平出の重伝建とうまく組み合わせるっていうような考え方はどうですか。

**中野生涯学習担当部長** 重伝建はまだこれからどうなるかっていう部分ありますけども、今までも平出遺跡と集落を抜けて博物館っていうルートの中で、全体の案内用の位置図をつくったりとかして集落を抜けて通る、要は歩いてもらおうという取り組みについては、博物館できちっとつくって宣伝と言いますか、案内をしてきているそういう状況です。

遺跡を使うという石井委員からのお話がありましたけども、今年は、「そば切り物語り」が中止されてしまっているんで、遺跡の活用については、平出博物館が所管する事業だけではない使い方というの、やはり模索していく必要があると理解しています。せっかくあれだけの広い、子供たちが自由に使えるような広場があるので、そこを使っていくということについては考える必要があると思っています。

**小澤教育長職務代理者** ちょっといいですか、済みません。中野部長が、今、話した中で、私の胸にぐさっとくるのは、えんぱ一く建設の手法の話です。あれはボトムアップですね。市民みんなにアイデアを募って、募ってつくり上げた。こういう手法が体育館建設でも生かされている。今度、博物館建設になった場合でもその手法に学ぶと、こういうことを、今、おっしゃってくれました。ぜひみんなでつくり上げる博物館、そういうふうにしてもらえば、また市の宝が1つふえる、そんな思いですのでお願いします。

**小口市長** 正直、図書館や体育館ほど市民の興味ありませんからね。課題は正直に申し上げました。

**小澤教育長職務代理者** 松本の美術館。

**小口市長** あれは、レザンホールでしたよね。

**小澤教育長職務代理者** 警察の跡地につくった美術館です。

**小口市長** 草間弥生の。

**小澤教育長職務代理者** 最初、お荷物になるぞ、あれは大変だぞって言っていたが、今は、一流の美術館になっています。

**林委員** 世界の草間彌生ですからね。

**小澤教育長職務代理者** 場合によっては塩尻も三大遺跡のからみで、三大ミュージアムの一つになる芽はあります。それを中野部長たちは考えている。

**小口市長** 確かに暗っぽくて、いい場所じゃないことは確かだけど、そうすると泉の物語がなくなっちゃうし、上の古墳の物語とも離れちゃうし、痛し痒しなんですよ。

**小澤教育長職務代理者** あそこら辺一帯を公園パークにしていけば、相当に生きてくると思います。

**小口市長** それは今でも重伝建とそこをつなぐ小道と、清らかな水路のあるところをですね、町なかを。重伝建ってのは、本来生かしていかないと意味がない。使わないで取っておくものを、もう文化庁もそこまで頭古くなくて、生かしてつなぐってことですね。というふうに大分、頭切りかわってきてる部分でね、すると当然そういう方向に、面的整備になると思いますけどもね。漆工町も奈良井宿も生きてるから都市の価値があると思います。

**中野こども教育担当部長** ほかにいかがでしょうか。社会教育・文化施設全般のことですが。

**小口市長** 来場者はガイダンス棟が意外と多いんだね。3万1,000人入っているの。平出博物館の6倍か。

**中野生涯学習担当部長** ガイダンス棟ができてから、今まで博物館で行っていた小学生の体験学習がガイダンス棟に移行したということがあって、ガイダンス棟が増加しています。

**小口市長** そうか。勾玉づくりとかですね。

**小澤教育長職務代理者** あれは喜びます。

**小口市長** こっちが増えて、見かけ上、平出遺跡は減ってるんだな。

**中野生涯学習担当部長** 博物館で減ってるんですが、企画など工夫をしています。

**小口市長** これを今、やっぱりロケーションの問題だよ。距離の問題ですね。

**中野生涯学習担当部長** ガイダンス棟に来た人を博物館へ連れてくというのは、ちょっと距離があります。

**小口市長** やっぱりガイダンス棟の場所が影響大きい。いや、俺、このときに反対意見を出したんですよ。自分の生活見ても500メートル歩かないです。車で行きます。

**中野生涯学習担当部長** そういった傾向になっているというのが、ガイダンス棟が多い理由であると考えられます。

**小口市長** そうかそうか。これ、数少ないけども、なくすわけにいかんしね。数から見りゃ、この贄川関所もいらぬし。数だけで見ると間違っちゃう。数だけだと、ふれあいプラザもいらぬですよ。短歌館はいらぬって言えるかどうか。かと言って、なくすわけにもいかない。柏茂会館はなくてもいいかもしれないですね。NPOに譲ることもできるね。必要ないってことなら、壊すしかしょうがない。

**山崎市民活動担当課長** 打診はしてるんですけど、やはり今の体力ではなかなか難しいというような状況のようです。

**石井委員** さっき出た柏茂会館は、これは無理だと思います。猿が出たり熊が出たりして、なかなかあそこへ行くって人は少ない。

**中野生涯学習担当部長** 建物も古くなってきており、なかなか維持するための費用をつぎ込んでみても、それだけの人が集まらない。

**小口市長** そのとおり、本当にそれはいい物件ではない。

**中野生涯学習担当部長** ですので、先ほど課長が言ったように、今後やめていくことも含めて考えていきたい。

**石井委員** あそこへお金かけても、難しいということですね。

**中野こども教育担当部長** 文化施設等はよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

## 5 その他

**中野こども教育担当部長** それでは、その他という形になりますけども、教育環境の分野について共通認識が必要のあるというものがございましたら、お願いしたいと思います。また、その意見等いただいた後にですね、冒頭、市長から話がありました不登校の関係、資料ございますので、そんなところもその後御説明をさせていただきます。

その前に、全般通して教育関係の分野について何かございましたら、皆様からお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

**小澤教育長職務代理者** たつてのお願いで、英語の件であります。ことし県下に先駆けてその対策をとるべく指導主事を配置していただき、大変ありがたいわけであります。主事自身もことしは模索の年、初めての経験ということで大変だったろうと思うんです。来年度からは実績を残してもらいたい、こんな気持ちでいるわけであります。これからお話しするのは私の体験であります。先日、長野へ出張で行きました。汽車の中、目の前に小学校の高学年の子供が座った。しばらくしてその子たち、かばんの中から本を取り出して読書を始めました。ひょいっと見たら英語の本でありました。小学校高学年の子供が。

**小口市長** それはすごい。

**小澤教育長職務代理者** 英語のこんなに厚いやつです。いやいや、学校は困っているなんて言ってるけど世間は進んでいるなど、そんなことを思いました。早速私も、市の図書館へ行きました。英語の本、塩尻も結構そろっているんです。あるところでオックスフォードがいいって聞いたものから、そのオックスフォードの本を上條さんに探してもらいました。すると、抜けているんです。全部で100冊ぐらいあると思いますが、半分以上がなくなってる。なくなってるってことは、貸し出されてるんです。

**小口市長** 貸し出されている。

**小澤教育長職務代理者** 貸し出されているってことは、世間はもう先取りをして、どんどん進んでるってことです。学校関係も立ち往生している暇はないなっていうようなことを思いました。そこで、私は自分でできることを、今、ちょっと始めてるんです。学生時代、英語は余り好きじゃなかったけど、今やってみると、ヒアリング、聞く英語と話す英語と読む英語、ここには差があることを感じます。文科省は4つを全部一緒にやれ、こう言ってる。現場に4つが必要だから全部一緒にやれよってこういう。受けるほうはこれは大変だぞと、ましてや英語が日常になっていないところでヒアリングはできっこないんです。それを学校現場でも子供にヒアリング、ヒアリングって言ってやってくと、ますます子供たちは英語嫌いになるなっていうことを、今、感じてます。それよりもリーディングのほうがおもしろいです。市長さんに見てもらうために、図書館にあるものを持って来ました。読んでいるとはまっちゃうんです。おもしろいです。単語はわからないけれども、イメージでわかってくるんです。やっぱり、こっちのほう子供たちにとってはおもしろさをかき立てられる。

**小口市長** それ、漫画的な本なんですか。

**小澤教育長職務代理者** 物語。

**小口市長** 列車で読んでたつて子は、これではないですか。

**小澤教育長職務代理者** もっと厚いやつ。市長さん、こんな簡単なのって言うかもしれない。

**小口市長** 全然。これ、若いお母さんが子供に読んであげてれば感性は英語圏になりますよね。

**小澤教育長職務代理者** そこにあるオックスフォードもまさしくそうなんです。それで、私が思うの

は、この際、各学校にそのような物語を10冊でも20冊でも一挙にどんと備えて、子供に読む機会をとにかく提供する。中学生には、今さっき言った厚い本、物語、グレードをちょっとあげて。こういうような予算化してもらえれば子供たちに、リーディングの力は相当つくなど、そんなことを思い、ぜひ各学校にうんとたくさんの英語の本を入れていただきたいなど。

**小口市長** 使われるならね、使ってくれるなら。

**小澤教育長職務代理者** おもしろいです。ぐるぐると各学校で回せば、効率もあがります。

**林委員** 子供にとってリーディングのほうが親しみやすいですかね。私はヒアリングのほうが子供にとっては入り易いと思っています。でもリーディングもヒアリングもライティングもみんなそれぞれ必要なことですけど。高校の時、こういう副読書が来ても、ほとんどみんな読んでいないような印象のほうが強いので、どうかと私は思います。

**小澤教育長職務代理者** まずはこれもまた、専門家に相談してもらって。

**小口市長** そうですね、その部分確かに文科省は余り実践を考えずに、ただ導入することは決まってるんですね。

**小澤教育長職務代理者** ただ、やれ、みんなやれ。

**小口市長** であるならば、現実的などこをこの5人で研究していただいて、塩尻はどんなところから入るかを1年、もう1年ないのか。

**小澤教育長職務代理者** そうです。

**小口市長** 早く決めなきゃいけない。

**小澤教育長職務代理者** 指導主事が配置されたものですから、指導主事を先頭にして、どこの入り口から入っていくか。

**小口市長** そうですね、それ一番に決めなくちゃね。確かに私たちのやった英語は文法で、受験のための単なる英語ですから、余り意味がないってことはわかってます、最近ね。だから、子供のころアメリカに小学校生活を送った私の同僚の子供たちは、ペラペラですからね、今でも。だからそれは文法じゃないんですよ。会話ができるだけ。だから旅行に1人で行けちゃう能力は十分つく。これはね、やっぱり実践、人生の中で一番役立つみたいですね。海外で自力でできる子は、必ずトータル的に人間性が上がりますよ。たまに危ない経験もしますけど。ということが現実論だと思うんだけど、じゃあ、そのためには、今、委員おっしゃる文法じゃないんだよ。じゃあ、ヒアリングとライティングとどっちがいいですか。

**山田教育長** 今、新しい英語の指導要領の中では、小学校では文字を扱うことが本当に少ないので、このレベルのものを子供たちが文字を理解して読んでいくってことは不可能です。ただ、今、小澤委員が言うのは、こういうのにも親しむことによって、英語の文字に親しみ、当たり前になって、それを見ながら学校で習った少しの文字を手がかりにそれが、こういう意味なんだなということ想像しながら読んでいくことはできると思うので、そういうものが環境としてあることはとても大事だと思います。

この前、吉田幼稚園訪問に行ったときに、大きな英語の本と全く同じ日本語の本が対になって幾冊も幾冊も置いてあるのを見ました。その両方を借りていって日本語でも確認できるし、英語でも確認できる、そんなような絵本もたくさん出ているので、そうしたようなものが環境として整ってくるってことは大事であるかと思えます。やっぱり一番の狙いは、今、市長さんが言われたようにコミュニケーションですので、新しい世界を広げていくそういう力を、外国語を通してつけてくっていくことが一番だと思います。もちろん我々が教育の専門的なことを、外国の人と対等に話をすることは、これはもうとても不可能です。ですから、まずは日常の会話ができるという、そういうところを強化していく、そういう授業が小学校の英語の授業の中核になってくると思えますね。な

ので、日常のセンテンスの短い英文を、最大7語くらいがいいって言うように講師は言ってますけど、そのくらいの短いものを聞いて話し、話しては聞くことを繰り返すことによってコミュニケーション力を高めていくということが、多分これからの塩尻市の中核になっていくかと思えますけども。

**小口市長** そのためには、今、同じ物語を、例えばこういうのね、日本語バージョンとあればとりあえずそれでいいんだよね、中国語までいらぬ。というのを教育委員会の方針として、それを決定いただくのであれば、それは別に1億円かかる事業じゃないでしょうから、実践的な入りやすいステージだと思いますね。でも、そういうものもないとやっぱり先生もさ、やれって言ったって困るでしょう、何やっていいかわからなくて。よけいな悩みも先生できちゃうし、先生が不登校になっちゃう。

**石井委員** 小学校から中学卒業したら、簡単に英会話ぐらい簡単にできるような状態に持っていくというような、その目標をなれば、ただ、のんびんだらりてやっちゃう。

**山田教育長** ただ、身近な例をとるとするならば、小学校から始めた英語が、例えば奈良井宿の子供たちが中学卒業するころになってくると、奈良井を訪れた外国人観光客を案内できるくらいになるとよいと思います。例えば、およそこは何年くらい前の建物とか、ここのこの漆というのはこういうものだということを、紹介できるくらいの力がつけば万々歳だと思います。コミュニティ力として、コミュニケーション力として。

**小口市長** それ、いいね。

**山田教育長** それは今、奈良井地区の校長先生方も考えていて、小中連携の中で最終的にはそこを目標にしたいと言っています。中学校区のコーディネーターやってる土川さんは民宿やられてるので、そこへ泊まった外国客の方に話をして了解してもらった上で、例えば学校教育に関心のある人が泊まれば学校見学をしてもらおう。休み時間に子供たちと話をしてもらったり遊んでももらったり、場合によったら実費をいただいて給食を一緒に食べる、そうした場面で生活を通しながら、「きょうのおかずは何々です」とか、「これは私たちが毎日使っている漆器という名前の食器です」とか、そういうことが伝えられるくらいの力をだんだんと積み重ねていけるといいなと思います。

**小口市長** そういう自由な形で文科省は、いいですよ。

**山田教育長** 計画的に行えばいいと思います。

**小口市長** 広丘小学校は短歌の道を案内できる。これ、テーマでしょう。

**山田教育長** いいですね。

**小口市長** 北小野は今でも案内してくれてる、ど真ん中ウォーキング、中学生がやっているよね。そういうのをテーマにすると。片丘はバイパスをどういうふうにつけるか、今は間に合わないけど、回るときは回るようになるからっていうテーマとかね。そういうふうには学校、それ、うまくいけばコミュニティ・スクールの一つの大きな位置づけになるじゃないですか。地域の人が過去を語り、今をつくりってことを教えてあげればね。各校、テーマ探せるんじゃないですか。

**山田教育長** 今、コミュニティ・スクールで協議会長や校長先生方と話しているのは、各校の中核的な活動。

**小口市長** それをだから英語でやればいいんだよ、一石二鳥だと思います。

**山田教育長** それが英語でできればいいし、もちろんできるだけ地域にいる英語の堪能な方も学校へ来ていただいて、一緒に活動をしていくっていうことも進めていかなきゃいけないかなと思っています。

**小口市長** 逆にコミュニティ・スクールがうんとスピードを持って進むかもしれないね、2つを同時にできるんだから。いいですね、それやりましょうよ。それ、塩尻モデルって名前つけて外へ出せ

るように。

**山田教育長** 全部の学校へはかなり厳しいと思いますけど。

**小口市長** 全部やらなきゃだめです。

**山田教育長** とりあえずできるところは。

**小口市長** テーマのない学校の子だけ賢い子にならないんじゃないかと困りますよ。それは差別です。テーマは違ってもいいけど。

**石井委員** ただ、のんびんだらりやってちゃだね、なかなか。

**小口市長** 全然何の進化もないと思いますよ。

**石井委員** 何か目標がなきゃ、中学卒業したら英会話でもって話ができるとか。そこまでもっていくとか。

**小口市長** もし何もない学校は、修学旅行に英会話しなきゃべらないという。買い物するときも。

**小澤教育長職務代理者** 学校現場でも、どうやって使うかってことになったとき、うんと盛り上がるんです。夢があるから。ですが、子供たちは、実際に目の前にしたとき、思ってることを英語で伝えるトークテク。ものすごく苦労なんです。出てこない。わかっているけど出てこない。それを考えたときに、やっぱり心の中に、英語に触れる機会を多くしてボトムアップ。それこそ、自然に、自ずと出てくるまで溜め込んでいく。まずは子供たちに嫌いにさせないように。そのためにこういうものを通して、英語っておもしろいな、イメージーションの世界は面白いと思うようにしたい。子供たちが好きになるように、嫌いににならないように、簡単なものに触れさせて、おもしろさを体感させておきたいなど。

**小口市長** それは。

**小澤教育長職務代理者** 手段は幾らでも出てくる。

**小口市長** 比較的低学年からでもできますから。徐々に進化して行って、5年、6年で今言ったテーマに取り組むということで構わないし。

**小澤教育長職務代理者** そういうことです。

**小口市長** 初めにテーマまでは、確かに難しいですよ。説明の宿題自分で考えろって言ったって1年生は考えられない。テーマ見つけられない。

**小澤教育長職務代理者** 想像するに、若い親たちは、もうそれに取り組んでいるじゃないかと思うんです。子供に読み聞かせている。

**小口市長** そうかね。そんなに期待していいかね。

**林委員** そういう方もいらっしゃるってことだと思います。

**小澤教育長職務代理者** 中にはね、タブレット端末持っていて学習している。

**小口市長** かなり特別な子。

**山田教育長** 電車に乗ってるのは、そういう子供たちですよ。通常の子供たちは。

**小口市長** 偶然、見ちゃったってこともある。

**小澤教育長職務代理者** 乗り遅れちゃいけない。負けちゃいけないぞと。

**小口市長** ぜひ、ここだけの会話にしないように両庁でフォローします。だってそこまで来てるんだから、もうマストだってことです。中身はあれで自由度あるみたいだけど、やることはマストなんで、より実効性が担保されたほうがやりがいがあると思います。

**中野こども教育担当部長** 図書館の今の状況をお願いします。

**中野生涯学習担当部長** その辺の関係ですけど、先ほど教育長が言った、その英語と同じ絵本の日本語版を用意するように指示をして、用意しました。配架すると、すぐに借りられてしまう状況です。そういう状況が現実にあります。教育指導主事がことし入ったので、その先生と話をし、先ほど

の絵本の英語版をリストアップしてもらい、図書館で全部購入しました。それを見てもらって学校の先生たちが、どの本を買えばいいのかっていうことを判断してもらおうということです。図書館側としてはそういう取り組みを既に行なっております。

**小口市長** ですよ。こんなに。汎用性がある。

**中野生涯学習担当部長** できるだけ先生も選ぶところをしてもらわないと、幾つもあるうちから全部買うわけにはいかない。全部買うのは図書館が買います。それを見て各先生が選んでいく、そういう形を今、とらさせています。

**中野子ども教育担当部長** このような状況でございますので、また今のお話、また今後の施策につなげていければと思います。お願いします。

続きまして、不登校の関係、資料がございますので事務局から説明をお願いいたしますが、このことにつきましては非公開という形でお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

### <非公開部分削除>

それでは済みません、大分予定時刻より長くなってしまいましたけれども、事務局から連絡事項は、いいですか。

## 6 閉会

**中野子ども教育担当部長** それでは、本日の会議事項全て終了いたしました。これにて閉会とさせていただきます。大変ありがとうございました。

○ 午後4時01分に閉会する。

以上



平成29年11月28日

署 名

市 長

---

教 育 長

---

同職務代理者

---

委 員

---

委 員

---

委 員

---

記 録 職 員 教 育 総 務 課  
教 育 企 画 係 長

---